

# 技術フォーラム ニュース

シンポジウム：「新しい時代における新生防衛大学の教育理念について ～一期生の体験に基づく～」

日時：平成 27 年 8 月 29 日（土）10:00～11:45

場所：港区新橋生涯学習センター

講師：森野安弘 様

森野軍事研究所長 防衛大学校1期生

司会：岡 孝 夫 技術士

主宰者挨拶

技術フォーラム理事長 原田 敬美

工博・技術士

本日は「教育・人材育成」というテーマで森野先生に、ご講演をしていただきます。

私は、何度も、教育には学際的なアプローチから相手を知るという事が重要だという経験をしました。

それは、私たちは歴史から見ると、相手を知るという事が不得手だという裏返しでもあります。軍事は相手を知ることが、最も重要な分野のひとつです。先生の講演から多くのことが学べると思います。

今回はどうぞ宜しくお願いいたします。

## 司会者（岡氏）

講師の森野安弘様のご略歴を紹介します。森野様は、S32に防衛大学をご卒業後、陸上自衛隊に入隊。第8師団長、東北方面総監を歴任され、退官の後、『森野軍事研究所』を開所、同所の所長となされています。。それではご講演をよろしくお願ひします。

## 講演要旨：

今回は、「新しい時代における新生防衛大学の教育理念について ～一期生の体験に基づく～」というテーマでお話をいたします。

防衛大学の教育理念は、初代校長、榎智雄（まきともお）先生が命を賭けて築いたものです。先生は、新しい時代にこの国を担う防衛の将校となる若人をどのように育てるかに心血を注ぎました。そのため先生は退官後2年で亡くなってしまいました。

自衛隊は、世界の中で1流の軍事組織として認めら

れ且つ尊敬もされています。それは、70年間、一人の戦死者も、一発の銃弾さえ撃っていないなか、規律厳正にして戦闘戦術においてトップレベルと評価されており、これは世界では例を見ないものです。これから、そのような組織を担う将校は、どのような教育を受けてきたかについてお話します。

## 1. 自衛隊設立の背景と防衛大学校

現在、防大生は63期です。かつての帝国陸軍の士官学校は60期で終わっています。現在の自衛隊は帝国軍隊の歴史を超えています。

まずは、その当時の政治情勢をお話します。防大の設立構想は占領下にまとめられました。既に世界は冷戦下です。ヨーロッパでは東欧が、アジアでは中国がソ連の影響下に入り共産化の波が押し寄せて来て、米国から再軍備の要請が来ます。当時の吉田首相は、国民感情や財源の不足を理由に突っぱねました。しかし、朝鮮戦争勃発で状況が変化します。戦争に対処するには、日本に駐留している米軍の4個師団7.5万の全投入が必要です。そこで米軍が担っていた治安維持が問題となります。

日本の再軍備に反対していたマッカーサーも警察予備隊として7.5万の実力部隊創設の指令を出さざるを得なくなりました。この指令に吉田首相は政令で警察予備隊を組織することとしました。政令としたのは国会対応のためです。

公布してから1週間余りで予備隊は発足しました。米軍・政府・官僚がいかに必死になったかが分かります。

その後、マッカーサーが解任されリッジウェイが着任します。彼は、警察予備隊を見て、将校不在の是正を要求したが、パージ（追放）を免れたのは尉官クラスでした。彼らには軍を指揮することは出来ないで、少佐中佐のパージを解き入隊させます。しかし、彼らでも力不足でリッジウェイは吉田首相に大佐のパージを解くように要求するも旧来の軍隊の復活を望まない首相は頑なに拒否しました。



原田理事長



講師：森野安弘様

最終的には首相の私的軍事顧問であった辰巳英一氏の意見を徴し人選をすることで納得しました。

旧軍隊の復活を望まない首相は、要は軍隊を統率する将校の教育育成にあるとして、直ちに学校を作るよう命令。その結果、出来たのが防衛大学校です。首相は校長の要職の人選を今上天皇の教育係りの小泉信三氏に依頼し、推薦を受けたのが槇校長先生です。

## 2. 防衛大学校の人材育成

槇校長は、慶応を出てからオックスフォードで学位を取り、慶応大学法学部教授、理事を務めた方です。東大、官僚嫌いの吉田首相は、槇さんに会うと惚れ込んでしまいます。そして、首相から旧軍の悪弊を除去するよう求められます。旧軍の悪弊とは、政治への容喙(ようかい)であり、下克上であり、陸海軍の争いです。

民主政治に求められる将官は偏狭な軍事専門家では無く、順法精神に富み合理的判断の出来るバランスの取れた人間であり。この人材の育成が、新しい時代における防衛大学校の教育理念です。

その教育理念は防衛大学第1期生の入学式の校長式辞に表れています。

「諸君の任務は偏することなき均衡の取れた人物であることです。もうひとつの任務は民主制度に対する的確な理解です。」

善き社会人たれ

軍人たる前に善き紳士たれ

世に槇イズムと呼ばれ、流布されている言葉ですが、私はこういう発言を公の場で聞いた覚えはありません。

校長は教育訓練の場に良くお出になる。そうすると休憩の時など自然に校長を取り囲む輪が出来る。そういう時に聴いた言葉が槇イズムでした。だから骨の髄まで響いたのです。

次に出てくるのは、「槇イズムで軍隊を指揮できるのか？」という問題です。

防大では、カリキュラムに防衛学及び理工学の基礎知識の習得が求められます。なぜ基礎なのかといえば、学問は進歩する。常に学ぶ姿勢を持って、ということです。

軍隊は、最終的には命令という形で意思を伝達します。その時、将校には指揮・統率の資質・資格が求められます。それも実戦では咄嗟の決心が必要です。瞬時の決心は理屈、学問の問題ではなく身体に染みこませるものです。これをどこで鍛錬するのか。

この二つは槇イズムの実践ですが、特に、お話したいのが人間性の鍛錬、徳育です。

槇校長は自主自立の精神を最も重視しました。学生は失敗を恐れず自主自立の精神でチャレンジする

ことを求められました。その精神を普段の生活の中から創っていく。私たちは、それを学生隊という総勢2,000人の組織を自主自立の精神で運営することで学びました。学生隊とは学生による組織で、勉強から掃除、健康や訓練まで全ての問題を取り扱います。自主自立の精神で学生の学生長が責任者となり半年毎に交代で受け持つのです。学生長は学生心得のルールの中で自分の見識を十分に発揮できます。

私が防大で学んだ民主主義の基本、それは個性を尊重し個人が充実し伸びる組織を前提に、そういう人々の衆意の基づいた規則を尊重する遵法精神、人の道に背かない道義を守る道徳的服従。この規則と道義こそが正義であり、これに服従せねばならない。これにより民主主義が実現するのであるということでありました。

自由と規律の問題も、私たちは生活を通じて鍛えあげられました。

私は槇校長の入校の式辞の教育理念を4年学び、部隊で34年間実践してきました。その成果は旧軍を越えた自衛隊の歴史が証明しています。

## 3. 質疑応答

**質問：**自衛隊の戦力の世界ランキングは？

**回答：**軍隊は戦うためにあります。しかし、戦うか戦わないかは、国民が決めるのです。そして、戦う限り勝ち得なければいけない。つまり、どのような戦だったなら勝ち得るかを考えなければなりません。まず、前提条件は戦争継続能力です。人口や資源からいっても最大1年です。日清・日露の戦争も1年でした。大東亜戦は3年以上。いつ戦争の矛(ほこ)を取めるかを考えないで戦争は始めるのは愚かなのです。これは政治が決定すべきことですが、私は日本の現状から判断し、又与国米国の戦争支援の国民世論、議会の決定等の確立、そして陸・海・空の戦争加入を見積もれば、少なくとも3ヶ月程度は自力で高度紛争等の事態に対応できる戦力を保持する必要があります。従って戦力の世界ランクを付けるのは困難と言わざるを得ません。これとても、この国を自分たちで守ると言う決意あつてのことです。

**質問：**防衛省には派閥のようなものはありますか？

**回答：**内局(大臣を補佐する事務官僚)は分かりませんが、陸海空の自衛隊においては全くありません。幹部になるための幹部学校は極めて狭き門ですが、一尉になれば誰でも試験を受ける資格があります。この上にあるのが国家戦略を担当する防衛研究所で、ここは省庁横断の組織です。こういうフラットな組織体系ですから、閥を作るということは無いのです。

ここにも槇校長のイズムは生きています。

(了)

## 技術フォーラム 活動報告

### 1) 監査、研修講師派遣等実績

|  |  |  |   |   |  |   |  |
|--|--|--|---|---|--|---|--|
| 業務実績のある自治体等  |  |  |   |   |  |   |  |
| 昭島市、<br>板橋区、<br>鹿沼市、<br>小平市、<br>渋谷区、<br>調布市、<br>日光市、<br>東村山市、<br>目黒区、<br>二十三区清掃一部事務組合、 | あきる野市、<br>磐田市、<br>川越市、<br>狛江市、<br>杉並区、<br>土浦市、<br>練馬区、<br>日野市、<br>守谷市、 | 旭川市、<br>牛久市、<br>清瀬市、<br>寒河江市、<br>逗子市、<br>所沢市、<br>野田市、<br>藤沢市、<br>八千代市、 | 足利市、<br>江戸川区、<br>桐生市、<br>三条市、<br>裾野市、<br>栃木市、<br>函館市、<br>前橋市、<br>山形市、 | 厚木市、<br>大田区、<br>国立市、<br>相模原市、<br>墨田区、<br>富里市、<br>秦野市、<br>町田市、<br>和光市、 | 足立区、<br>太田市、<br>郡山市、<br>寒川町、<br>草加市、<br>長岡市、<br>八戸市、<br>三鷹市、<br>大和市、 | 荒川区、<br>青梅市、<br>小金井市、<br>上越市、<br>袖ヶ浦市、<br>新座市、<br>八王子市、<br>水戸市、 | 伊勢崎市、<br>鎌倉市、<br>国分寺市、<br>常総市、<br>館林市、<br>西東京市、<br>東根市、<br>武蔵野市、 |
| 技術監査・工事技術調査等の実績分野  |  |  |   |   |  |   |  |
| 建築工事(設計、建築、電気、機械、空調)   |  |  |   |   |  |   |  |
| 土木工事(道路、橋梁、河川、港湾、立体道路、駐車場、公園、競技場)  |  |  |   |   |  |   |  |
| 上下水道(上水道、下水道、管渠、調整池)   |  |  |   |   |  |   |  |
| 環境(清掃工場)   |  |  |   |   |  |   |  |
| 情報(清掃組合の情報システム)  |  |  |   |   |  |   |  |
| 業務監査(工事契約手続き、不正発注実態調査)   |  |  |   |   |  |   |  |
| 情報(システム監査研修講師派遣)   |  |  |   |   |  |   |  |
| 監査委員研修(都市町村研修所、茨城県内自治体、静岡県内自治体、新潟県内自治体、区部江東地区、城西地区)                                    |  |  |   |   |  |   |  |
| 技術職員研修(町田市、立川市、八王子市、都市町村研修所)   |  |  |   |   |  |   |  |

### 2) 当会会員による関連雑誌記事、新聞記事、書籍等

|   |  |
|---|--|
| 1 | 「事業の無駄を斬る！技術専門家の目・総論編、建設編、環境編、情報編」<br>原田敬美、根本泉、高堂彰二、田吹隆明<br>月刊「地方自治職員研修」2006年1月号～4月号まで連載、公職研 |
| 2 | 「談合の根絶 外部監査で公正性確保」原田敬美<br>読売新聞「論点」2006年3月2日  |
| 3 | 「私の官民協働のまちづくりー東京港区長奮闘記」原田敬美<br>学芸出版社 2006.9.10 発行 ISBN4-7615-1217-2                          |
| 4 | 「技術には専門の監査が必要だ！」NPO 地域と行政に支える技術フォーラム [編著]<br>R&B ブックス 日刊工業新聞社 2009.7.15 発行                   |
| 5 | 『重要性高まる技術内容の「監査」技術士の視点での設計・積算・施工の問題点をチェック』<br>日経コンストラクション 2009.11.27 号 66 ページから              |
| 6 | 「新潟県都市監査委員会定期総会での講演(タイトル:技術の専門区長から見た監査活動への期待)」原田敬美<br>上越タイムス 2013年5月22日                      |
| 7 | 「経営に役立つシステム監査ー事業リスク分析評価～改善提言」小佐野市男<br>日刊工業新聞「課題に挑む技術士のソリューション」2013年6月11日                     |

### 3) 当会主催のシンポジウム抜粋

|      |   |
|------|---|
| 1～28 | 当会ホームページをご覧ください。( <a href="http://www.efsc.jp/">http://www.efsc.jp/</a> )   |
| 29   | 「野外における危険な生物(生体と対応)」<br>2014年8月30日(土) 港区立新橋生涯学習センター                         |
| 30   | 「みんなが創るまちなかの価値～誰もが楽しみ安心できる場所 誰もがつながり育てるまち～」<br>2014年11月29日(土) 港区立新橋生涯学習センター |
| 31   | 「東京の地下鉄事情」<br>2015年2月28日(土) 港区立新橋生涯学習センター                                   |
| 32   | 「建築生産プロセスを変革する BIM について」<br>2015年5月30日(土) 港区立新橋生涯学習センター                     |
| 33   | 「新しい時代における新生防衛大学の教育理念について ～一期生の体験に基づく～」<br>2015年8月29日(土) 港区立新橋生涯学習センター      |

## 技術フォーラム 活動予定

### 1) 監査、研修講師派遣等予定(H27年11月～、平成27年10月まで受注分)

|   | 対象機関           | 分野                        | 年月       |
|---|----------------|---------------------------|----------|
| 1 | 某市区(7市、3区、1組合) | 工事技術調査(建築9、土木2、電気2、プラント1) | 平成27年11月 |
| 2 | 某市(2市)         | 工事技術調査(建築2)               | 平成27年12月 |
| 3 | 某市             | 工事技術調査(建築)                | 平成28年1月  |
| 4 | 某市             | 工事技術調査(建築)                | 平成28年2月  |
| 5 | 某市(2市)         | 技術職員研修                    | 平成27年12月 |
| 6 | 某市             | 管理職研修                     | 平成28年1月  |

### 2) シンポジウム予定

次のシンポジウムを以下にて開催します。

**テーマ:「東日本大震災の経験とこれからの防災について」**

**講師:宮本卓次郎 様(ウォーターフロント協会理事、横浜国立大学特任教授、元東北地方整備局副局長)**

**場所:港区立生涯学習センター**

**日時:平成27年11月28日(土)10:00～12:00**

当シンポジウムへの参加ご希望の方は、氏名、所属を明記の上事務局へ

FAX:03-3404-0734

メール:[info.efasca@efasca.jp](mailto:info.efasca@efasca.jp)までご連絡ください。

### 3) 1日監査に関するパンフレット

情報と環境に関する1日監査のパンフレットがあります。御希望される機関はお申し付けください。

### 編集後記

当NPO法人では、3カ月に1回実施しているシンポジウムの内容を広く皆様に知ってもらうことを目的に、年4回「ニュースレター」を発行しています。今月号は平成27年8月に実施したシンポジウム「新しい時代における新生防衛大学の教育理念について ～一期生の体験に基づく～」と題し、森野安弘様にご講演いただいた内容です。防衛大学の教育理念について分かりやすく述べていただきました。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えて行きたいと思えます。講演内容につき、ご要望がある場合は、ぜひ下記ニュースレター事務局までお寄せください。その他のニュースレターに関してのご意見、ご要望も下記ニュースレター事務局までご連絡ください。

ニュースレター事務局: [oka@cea.jp](mailto:oka@cea.jp)

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

TEL 03-3403-2325

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美

### 4) その他定例会活動予定

月例会

日時:毎月第2土曜日 10:00～

場所:港区立生涯学習センター

会員であれば、どなたでも自由に参加できます。

### 5) 会員種別

当会の会員は以下により構成されています。

☆ 正会員 (年会費¥5,000)

☆ 研究会員 (年会費¥3,000)

### 6) 当会ホームページのご案内

技術フォーラムの活動は、ホームページで詳しくご覧いただけます。( <http://www.efasca.jp/> )

このニュースレター1号～33号についても、ご覧いただけます。

また、メールアドレスは下記のとおりです。

メールアドレス: [info.efasca@efasca.jp](mailto:info.efasca@efasca.jp)